

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について（公認の部）

本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 岩見沢市東山陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 練習場所については、本競技場にサブトラックがないため、バックストレート外側のスペースを使用し
てよい。
- 3) 開門時間は、**7:00**とする。
- 4) 競技開始前におけるホームストレートのトラックの練習は、**9:15（競技開始の 15 分前）**までとする。

3. 点呼・棄権について（公認の部）

- 1) 競技者はタイムテーブルに記載された**現地集合時間**に、各競技開始場所に直接集合すること。
- 2) 指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

4. アスリートビブスについて（公認の部）

- 1) 競技者は、各自のアスリートランキングにエントリー記入したビブスを使用する。2025 年度のものを使用すること。
- 2) **腰ナンバー標識は本競技場で用意する。**100m 出場者はスタート後方で、点呼の際に受け取りに行き右側の腰につける。レース後、直ちに補助員が回収する。

5. シューズについて（公認の部）

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟規則 **TR5** に基づいたシューズを着用すること。

以下の表は日本陸上競技連盟陸上競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 （三段跳を除く）	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競走を含む 800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。

- 2) 特に小学生、中学生に関しては履いているシューズの厚さが規定を満たしていないことが多々あるため不安な場合・スパイク以外を使用する場合は必ずシューズの厚さ検定を行うこと。

6. 競技の番組編成について（公認の部）

- 1) トラック競技のレーン順はアスリートランキング記載の順による。
- 2) 二次レースまたは三次（決勝）レースに出場するためには、前次のレースまたは前ラウンドに出場して

いることを条件とする。

- 3) 二次、三次（決勝）レースの番組編成は、その前のレースの記録順で優れた選手から後方の組から編成するものとする。
- 4) アスリートランキングのシステム上、一次レースは「予選」、二次レースは「準決勝」、三次レースは「決勝」という表記となっているが、エントリー者全て棄権することがなければ、次レースへ進出する形となっている。

7. 【非公認の部】50m 走について

- 1) 受付時にエントリー料を支払い、腰ゼッケンを受け取る。その後、係の案内で走るレーンへ移動する。
- 2) 受付順に、1レーンから詰めて走る。希望するレーンや選手と同組で走ることができない場合がある。
- 3) 午前・午後の部において、公認の部のタイムテーブルの都合上、エントリーを打ち切る可能性がある。
- 4) スターティングブロックはタイムテーブルの都合上使用しない。スタート時の構えは任意とする。
- 5) レースのゴール後、腰ゼッケンを係に手渡すこと。その後、記録証を受け取り終了となる。記録証の受け取り場所は当日伝達する。

8. 用器具について（公認の部）

- 1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。

9. 抗議について（公認の部）

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

9. 撮影について

- 1) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じると思われる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- 2) 参加者による撮影に関しては、
所属団体（学校・クラブチーム）がわかる服装をしている者のみ許可する。

12. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。
- 3) 競技場隣接の駐車場は台数が限られているため、岩見沢緑陵高校の駐車場も使用可能できる。万が一全ての駐車場が満車の際は近くの有料駐車場を利用すること。競技役員を除き、その際の駐車料金の一切を主催者で負担しない。

- 4) 大会期間中に出的ゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 5) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 6) その他、不明な点は大会本部（総務）まで問い合わせること。